

OKAME STYLE



丘女会会報
「OKAME STYLE」
第5号
令和2年1月発行
編集 丘女会広報部
TEL : 092-561-0662

何事にも全力投球！ 首都圏同窓会初の女性実行委員長。 盆栽作家と世界をつなげるコーディネーター

盆栽ライター、盆栽コーディネーター

こばやし なかむら まきこ

40回生 小林(中村)真紀子さん



<Profile>

高 40回生
明治大学農学部卒業
1993年 株式会社アスキー 入社
1999年 結婚
2000年 第1子出産
2001年 第2子出産
2002年 夫の海外赴任で米国へ(～2006年)
2010年 さいたま市大宮盆栽美術館に勤務
2010年 品種登録の仕事にも従事
2014年 一般社団法人日本盆栽協会に勤務
2017年 フリーランスへ

■盆栽との出会いからフリーランスへ

大学時代は農学部で稲を研究していましたので、卒業後は食品関係の職に就きたいと思っていました。ところが就職氷河期が始まり就職先がまったく決まらず、最後の最後で受けた当時のITベンチャー、アスキー(コンピューター雑誌の会社)に決まりました。そこでコンピューターと編集を学び、結婚、妊娠を経て退職。その後、夫の仕事の関係で4年間米国で過ごしました。40歳を過ぎてまた働こうと思っていた矢先、さいたま市大宮に「さいたま市大宮盆栽美術館」が開館することを新聞で知りました。農学部出身ですので盆栽に興味を持てるのではないかと思い応募したのが盆栽の道に入るきっかけと言えるでしょうか。どんどん盆栽の知識が深まり、また英語もできるということで数年後に日本盆栽協会へ呼んで頂きました。

2017年の首都圏同窓会の実行委員長を引き受ける際に、タモリ先輩にステージ上で「大丈夫か？ 仕事の片手間でこれはできないよ」と言われ、世界盆栽大会inさいたま2017で大仕事をやり切った後に、意を決して退職。実行委員長に集中しようと思い、フリーランスになりました。

世界各国に行ったからこそわかる 日本文化の素晴らしさ

協会時代より世界各国に取材に行かせて頂いています。日本の盆栽作家が海外の盆栽大会に招待されデモンストラーションやワークショップを行うのですが、そういった取材には経費がかか



りますので、なかなか国内メディアが海外まで取材に行くこともできず、よって国内メディアで紹介されることも多くはありません。私は身一つで海外へ出向き、盆栽大会を取材し記事にして国内雑誌に掲載してもらっています。海外の盆栽雑誌には、日本国内の盆栽展を取材して、日本の盆栽事情を世界に発信しています。日本と世界をつなぐ橋渡し役になれば、と走り回っています。

2006年に米国から帰国した時はアメリカかぶれになり、日本の良さに目がいきませんでした。ある時点から日本の伝統文化が世界に誇れる素晴らしい文化・芸術だと思えるようになってきました。日本の茶道、華道、漆、和紙、着物など、素晴らしい伝統文化を世界に伝えたいと気持ちが膨らんできたところで盆栽に出会い、ますます盆栽にはまっていったのです。

運動会だけを楽しみに3年間通った 高校時代

中学から始めた陸上を高校でも続けました。ですが、足が遅くて途中でやめたくなり、また練習の疲れから勉強も全然できずに、非常にやさぐれた3年間を過ごしていました。今思うと運動会だけを楽しみに通っていたような気がします。陸上部の先輩方や団長、ブロック長、応援団に憧れていた1年生の時を今でも鮮明に覚えています。英語、生物、国語、地理が好きで、理系なのに、数学、化学がからっきしダメ。農学部に行けたのも英語と生物があったおかげです。

社会人になってからは週刊アスキー編集部で国語の力を磨くことができました。生物が好きでしたので盆栽の仕事に繋がりましたし、英語が得意でしたので、今こうして海外と仕事をする事ができています。学生のときは気づきませんでしたが、高校時代に好きで力を入れて勉強したことが、こんなふうには仕事や自分の世界を広げることに繋がって

るんだとこの歳になってしみじみ思います。

海外留学の経験も、外資で働いたこともないけれど、気がついたら海外の人たちとも仕事をしていました

英語圏でない国に取材に行き海外の方々と会っても、英語一つでどうにかかなっちゃうんですね。やる気があれば何でもできると思います。無理だろうと思っていた仕事も、一度やり始めればどうにかこなせていけます。日本の社会はガチガチで何事もやりにくいことが多いですし、学生さんたちも委縮することも多いのかも知れません。でも、世界に目を向ければそんなことなく、協力者もいっぱいいます。国内のことだけに捉われず、日本の外にも常に意識を向けてほしいです。そのためには語学を何か一つ、身につけることが大切です。

■高校生へのメッセージ

三つあります。一つは好きな教科はとにかく勉強する。二つ目は全力で運動会に没頭する。三つ目は中国語でも英語でも、何か一つは語学を身につけて世界とコンタクトをとること。日本の内を見るだけでなくいつも外を見てみましょう。悩んでいたことが一気に解決することも多いと思います。

魂の牧者 人が心豊かに生きていけるために 祈ることが自分の仕事



ハンブルグ日本語福音キリスト教会牧師

いの ながた はゆみ

36 回生 井野 (長田) 葉由美 さん

■ キリスト様と一緒に生きていこう
と思ったドイツ留学からはじまり
音楽でドイツに留学した時、自分の性格が受け入れられず、いい人間になっただけではいけないけれど、実は心の中は醜いものをいっぱい抱えていて、それを見た人は私のことを嫌いになると思い、いつも自分を偽っているような感覚がありました。イエス・キリスト様に出会ったときに「あなたの悪い部分も、全部知った上であなたが大好き。丸ごとのあなたを引き受けよう。」と言われたのを感じ、キリストを信じました。

卒業して日本に帰国後、同じ思いだった人と結婚。実は結婚前に彼がガンだと

ということがわかっていたのですが、「病気だけど、まだ命があるということは、この世でまだすることがある。だから、希望を持って最期まで生きる。」と言って、最期は「僕は天国に行くから楽しみです」とずっとニコニコしていました。たった1年半の結婚生活でしたが、死を前にしても、たくさんの豊かな想いができたことを伝えられたらいいなと思いました。夫の仕事の関係で奈良に住んでいましたが、夫がいなくなってしまう、これから何をすべきか祈っていると「神のために働くように」という導きを受けました。神学校を卒業し奈良の教会で、牧師の下でしばらく働いた後、今のドイツの教会から「牧師が高齢で辞められたから、後任として来てください」と招聘され、ドイツに来ました。もう14年になります。

ドイツの教会に、今は女性教師もいますが、14年前はグループで初めての女性教師でした

最初は、教会に元々おられた年配の方に「この若いお嬢さんに何ができるの？」という目で見られていました。日本語の教会なので、来てらっしゃる方はほとんど日本人。礼拝も全部日本語で行います。皆さんドイツ語の中で生活をされていて、言葉の壁のため自分の言いたいことが言えないとか、文化の違いで誤解されるなどあって、日曜日に日本語の

教会にやってくると「ああ、日本語しゃべれる～」という感じになられるようです。



演劇部と運動会のダンス命の 高校時代

高校の頃は、勉強したくなくて…。運動会のダンスと演劇部のために学校へ行っていました。でも筑紫丘高校は進学校だから、深く考えもせず、当時のピアノの先生の勧めで教育大学に行きました。歌を教えられようになりたいと思って、声楽を専攻。でも教えるためには、教えられるだけの技術を身に付けていないといけません。大学卒業時点では「まだまだ」と思って、大学院に行き、院が終わっても「まだまだ私は足りない」と思い、勉強を続けるとしたら留学しかないと思いました。ドイツ歌曲が好きでドイツ語の響きも好きだったので、もっと勉強したいと思いドイツへ留学。高校時代はあんなに勉強したくないと思ったのに「なりたい」と思ったら道が開けるものですね。

■ 高校生にアドバイスを

ドイツで生活している自分を肯定的に見ている人が多いことを感じます。日本はセルフイメージが低く、「自分にはできない」と自分を低く見ている人が多いと思います。神はあなたを特別な存在として、計画をもって形造ってくださいから「本当はあなたにも価値がある」「可能性を信じて」と思います。周りの人が変に評価して「あなたは、だめだ」と言ったとしても、あなたには絶対価値がある、あなたにしか生きていけない人生を歩んでほしいです。例えば、寝たきりであっても、そこに存在していることがすごく尊いことです。若いうちに一度外国に行くと、「自分が見ていたところは本当に狭かったな」というのが見えると思います。



< Profile >

高 36 回生

福岡教育大学大学院音楽教育科 (声楽) 修了

1994 年 ハンブルグ音楽院声楽演奏科修了
1997 年 ブレーメン芸術大学声楽教育科卒業

2003 年 関西聖書学院卒業

奈良福音教会伝道師を経て 2006 年よりハンブルグ日本語福音キリスト教会牧師
日本とヨーロッパでチャペルコンサートなど行っている



「紹介してほしい人」を募集します

OKAME STYLE は年 2 回の発行を予定しています。今後の紙面に取り上げてほしい卒業生をご紹介します。自薦、他薦どちらでも構いません。「こんな素敵な人がいます」「この人の話が聞きたい」。多数のご推薦をお待ちしています。

広報委員長 小川訓名 (高 36 回生)

連絡先: 同窓会事務局 oka.dousoukai@gmail.com

ボランティアで20年、 子どもたちの成長に 地域の人間として関わっていく

NPO 法人アジア太平洋子ども会議 in 福岡
ボランティア

かじはら いん まりこ
29 回生 梶原 (因) 真理子 さん

■ ボランティア活動のお話を

NPO法人アジア太平洋子ども会議in福岡には、大きく二つの活動があります。一つは福岡にアジア太平洋地域を中心とした世界30か国以上の国から子どもたちを招きホームステイやキャンプを通して日本の子どもたちと交流する招聘型プログラム。もう一つは福岡の子どもたちを海外に連れて行って交流させるという派遣型プログラムです。加えて、かつて福岡に来た子どもたちがそれぞれの国でブリッジクラブという組織で国際的な視野を持ったリーダーとなって政治・宗教や個人的利益にとらわれないネットワークをつくり、友情の和と平和な社会をつくるために活動しています。

■ 具体的にはどのような関わり？

1998年ホストファミリーとしてバングラデシュの少女を受け入れたことに始まり、今はボランティアとして福岡の子どもたちを海外に連れていく活動に携わっています。これまでにバングラデシュ、グアム、北京、ブータン、ブルネイ、インドネシア、スリランカ、フィリピン、パプアニューギニア、カンボジア等11か国に行かせて頂きました。今も、ホストファミリーとして青年たちや大人を受け入れています。

**その国の本当の姿を知ることができる、
これはおもしろい**

最初にバングラデシュの少女を受け入れ、もう二度と会うことはないだろう



パプアニューギニアの子どもたちと

と思っていましたが3年後、バングラデシュに福岡の子どもたちを派遣することになり、再び会えるチャンスとボランティアに応募しました。出向いて交流し、バングラデシュの方々がとても誇り高いのに驚きました。ベンガル語を守るためにパキスタンと戦争までして独立したという歴史があり、ベンガル文化に誇りを持っています。アジア初のノーベル賞はベンガル人の詩人です。経済的には貧しくても心の中がとても豊かだということに感動しました。その国の本当の姿に触れる機会は、本当に貴重です。

**次世代の子どもを育てること、
成長を見るのが楽しみ**

私自身も3人の娘を育てましたが、ボランティアで関わった子も、地域の子もも次世代を担う子どもたちを育てていくのが、私の喜びです。海外に派遣する子どもたちは研修で急速に変わります。最初は外国に行って英語を使ってみたくらいの動機なのに、学習して日本のことも伝えられるようになり自分自身で考えて動けるようになるなど素晴らしく成長します。自分の力で解決できるよう辛抱強く見守っていますが、彼らの成長の数日間を親でもない私が見ていていいのかと思うくらい感激します。帰国後も関係が続いていく子が必ずいて、成長した姿を報告してくれます。第1期生はすでに41歳。政治家や国を牽引する立場になっている人もおり、これからの活躍が楽しみです。

■ 活動を続けてこられたのはなぜ？

西南学院大学在学中アメリカのアーカンソー州に1年間交換留学に派遣されました。その時、初めて自分が日本人であることを意識しました。保守的な地域で、人種差別もない訳ではない中、中国や韓国の学生に出会い、「ああ、私は日本人であると同時にアジアの人間なのだ」と再認識もしましたし、色々な家庭で温かく迎え入れられた経験も貴重でした。帰国後、海外の方にも、大学にも何か恩返しをしたいと感じていたこともホストファミリーをするきっかけです。



< Profile >

高 29 回生
西南学院大学文学部外国語学科英語専攻卒業
1981年 社団法人九州山口経済連合会
1984年 配偶者転勤で鹿児島へ転居
1998年～児童英語教室講師、NPO 法人アジア太平洋子ども会議 in 福岡のホストファミリー
2001年～NPO 法人アジア太平洋子ども会議 in 福岡の引率ボランティア
趣味：織物、中国語

**家庭人、地域の人間として
社会に関わっていくことが、私の道**

就職した3年目に結婚、夫の転勤先鹿児島に同行。寿退社や妻子同行が当たり前の時代です。鹿児島でも仕事を探そうとはしましたが、転勤族だったこともあり、家庭人として、地域の人間としてその立場でできることをしようと方向転換しました。鹿児島には10年以上滞在して、子育てを通して地域の方々との絆が深まりました。福岡に戻った翌年からボランティアに参加して、精一杯生きた自分の人生に後悔はありません。

■ 高校時代は私の土台であり礎

郷土研究部で古墳を訪ね歩いたり、古墳のジオラマや、大きな埴輪を作ったり。今や同級生たちはいろんな分野で活躍していて、困ったら相談できる人がいっぱい、有り難い財産ですが、多感な高校時代にありとあらゆる多様な視点を持つ友たちと語り合ったことは、今の私の礎になっています。学びの習慣が培われたことも財産で、今還暦を迎えながらも中国語に夢中です。

■ 現役の高校生に一言

目の前に広がる可能性を狭めないで。自分がやりたいって思った時が、ベストタイミング！決断に遅過ぎはありません。皆さんの可能性は無限大。何でもチャレンジして欲しいと思います。筑紫丘のネットワークは最大限に利用してくださいね。素晴らしい仲間たちです。

後輩を育てる楽しさで 毎日ワクワク、ストレスなし！ 自分が持っているものを全て伝えたい

南区薬剤師会顧問 メガ調剤薬局代表

15回生 めが ことう のぶこ 女賀(後藤)信子さん

それはフォルテで始まった。何にでも挑戦した高校時代。

入学式で初めて聞いた校歌は、荘厳で力強く、胸に迫るものでした。血潮たぎる青春時代の始まりでした。

美術部と化学部の2つを掛け持ちしていました。また、TNC主催の高校生クイズ大会に出ましたが、対戦校東筑高校に惜敗。しょげ返っている男子たちを尻目に「あ～お腹すいた！」と言い放つた、今でも同級生にからかわれます。何であれ一生懸命やった後は、サバサバして落ち込むことはありませんね。

当時は、60年安保全盛期でした。上級生が招集する全校集会では、先輩たちの議論のキャッチボールに目を丸くしました。正義とは何かがわからず、手当たり次第に本を読み漁りました。自分自身の思想を構築する時期だと思っていました。

遊びだけでは嫌で、勉強にも一生懸命でした。「先生があんなに一生懸命教えてくださいのだから、それに応えなければならぬ、100点を取らなければ先生に申し訳ない」「先生の言葉を一言一句でも聞き逃すなんて勿体ない」そんな思いで、授業に臨んでいました。

家に帰れば、4人きょうだいの長女として家事の手伝いが沢山あったので、ほとんど勉強はできませんでした。教科書をもったら全部最後まで解いてみて、わからないところに印をつけていたので、家での前日の予習は10分で終わりました。



エポックとなった衝撃的体験

高2の夏、炭鉱の廃坑・閉山が続く筑豊の窮状を知り、同級生たちから義援金やお米を集め、筑豊に届けに行きました。吹きさらしのような粗末な家々、畳がブヨブヨになってうねっている。新聞やニュースだけではわからない想像を超える貧困の実態に衝撃を受け、無力感に苛まされました。やはり自分の目で広い世の中を見なくてはいけない、もっともっと勉強してどんな形にせよ人のために尽くしたいと強く思うようになりました。

高3の夏に出会った一冊の本。 薬学部を目指す。

高3の夏休みに、下山事件(1949年に国鉄総裁下山氏が失踪し、翌日、鉄道の線路上で死亡して発見された事件)を題材にした法医学の本に出会い、薬学部を決めました。

今の高校生は、いくつもの学校を受験するようですが、私は、親の姿を見て贅沢はできなかったため、高校も大学も1校だけ、滑り止め受験なしの真剣勝負でした。

短時間勤務の10年

大学の美術部で知り合い結婚。3人の子育ての10年間は、自宅から自転車で10分の小児科クリニック近くの薬局で、午後3時から6時の1日3時間勤務をしていました。その時間は仕事だけに集中し、一度も休まず、今で言う「スパーパート」だったと思います。

羽仁もと子さんの「自由学園」の思想に共鳴し、子どもを見守ることに徹しました。毎晩ベッドの中で、「早く朝が来ないかしら、朝になって子どもに会いたい」と思うくらい、子育ても凄く楽しかったです。一番下の子どもが大学生になったので、薬局を設立し、独立しました。



< Profile >

高15回生

九州大学薬学部薬学科卒業

1967年 九州大学医学部循環器内科心臓血管研究施設 入局

1998年 メガ調剤薬局 設立

2014年 福岡市南区薬剤師会会長 就任

2019年 九州大学女子卒業生の会「松の美会」会長 就任

薬剤師という仕事の素晴らしさ

後期高齢者となった今も、薬剤師の仕事に誇りとやりがいを感じています。薬剤師は、重複投薬の防止や残薬の発生予防などの重要な役割を持っています。薬の効能を説明すると、「初めて附に落ちた！よくわかった！」と患者さんに喜んでいただけることも多いです。厚生労働省から送られてくる情報を日々チェックし、副作用情報などを医師に提供することもあります。また、自らの専門性を高めることで、より医療に、社会に、貢献することができます。だからこそ、真剣に若い人を育てたい、実習に来てくれる大学生に自分が持っているものを全て伝えたいと思っています。若い人たちが「女賀先生が目標」と言ってくれるのは本当に嬉しく思います。

現役生へのメッセージ

高校時代は、まだ自分の方向性が定まらない時期。「とりあえず大学に進学」ではなく、自分がどういう生き方をしたいのか、どういう大人になりたいか考えつつ、何にでも挑戦して精一杯やってみて欲しい。偏差値などに囚われず、こじんまりと無難に生きるのではなく、勇気をもって自分のあらゆる可能性を試して欲しい。そうすれば必ずから、自分の興味のあるカード、得意なカードが増えていくと思います。

【編集後記】

・早いもので5号発行できました。毎回取材でお話しをお聞きするたびに、自分の世界が広がるのがわかります。また宝物が増えました。(小川)
・高校時代って、なんて貴重な時間だったんでしょう！たったの3年間、同じ場に通っただけで、卒業したあと何十年も、数えきれない仲間と楽しめるんですから。(太田)

【制作】丘女会広報部：小川訓名(高36)、太田由美子(高32)、堤かなめ(高31)、米澤一江(高49) デザイン：藤田明子(高39)

※制作ボランティアスタッフを募集しています。興味のある方は広報スタッフもしくは事務局までご連絡ください。



丘女会のシンボルマーク

おかめ桜の花言葉は「豊かな教養、善良な教育、しとやか、理知に富んだ教育」